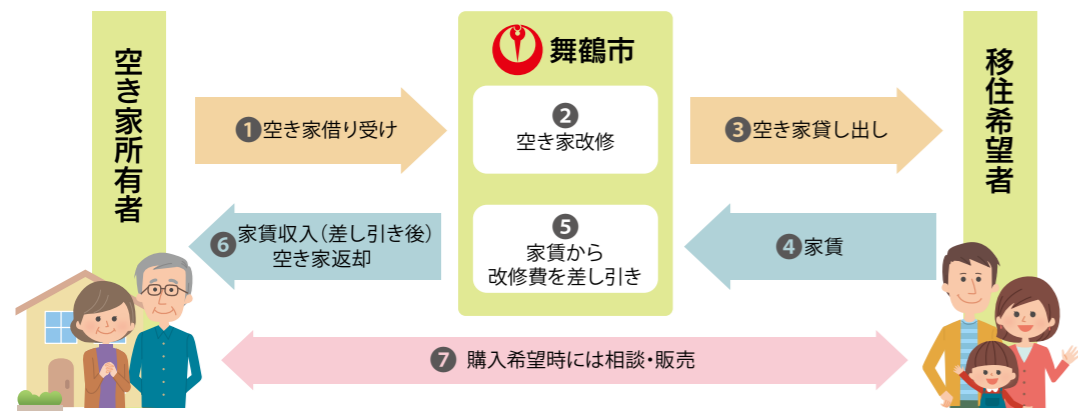


お試し住宅 活用の流れ



お試し住宅 5つの特長

- ① 空き家を市が借り上げて移住希望者へ貸し出し(期間は原則10年)。
 - ② 10年後に所有者に返却。
 - ③ 必要なリフォームを市が行い、改修費用は入居者からの家賃で回収。
 - ④ 家賃残額は家主の家賃収入。
 - ⑤ 借上げ期間内の維持管理は市が実施。
- 所有者としては、リフォーム費用や維持管理を市に任せられること。移住者としては、市と賃貸契約を結ぶことでより安心して契約できることが大きなメリットです。
- 市では、所有者・移住者が安心して賃貸借契約が結べるよう全面的にサポートします。
- ※お試し住宅に関する問い合わせや入居に必要な要件などは5ページに掲載。



▲設計を担当した舞鶴高専建設システム工学科尾上研究室の左から尾上教授、井上さん、田中さん、柳沢さん



移住・定住

お試し住宅で
まちなか移住



10月 イメージ模型完成

作製した各種図面と現状模型、設計条件をもとにコンセプトを決定。改修後のイメージ模型を作製し、地元説明会に備える。

9月 現地調査

レーザー距離計やメジャーを使用し寸法を測りながら平面図、立面図、断面図、展開図に落とし、現状模型を作製。



12月 工事着工前片付け

設計を担当した舞鶴高専の学生、地域住民の皆さん、市関係者、家主とともに工事着工に向けて片付け作業を開始。

11月 地元説明会

イメージ模型をもとに家主、地域住民にコンセプトを発表。後日、多々見市長へのプレゼンテーションも行いました。

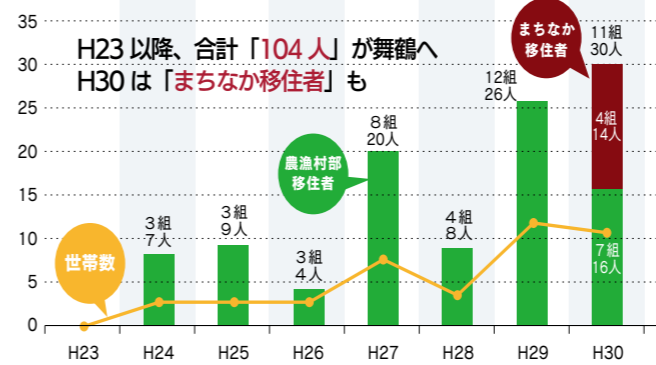


現地調査から工事着工までの約5か月間で測量や図面起こし、説明会と段階を踏んできました。第2号住宅の工事着工までの経過を紹介します。

01 flow 工事着工までの軌跡

舞鶴への移住者の推移

※ H30は12/3現在



海、山、まちなか。表情の異なる3つの地域からなる舞鶴は、京都市まで車で約1時間半、神戸・大阪まで約2時間と都会に近い田舎。そして、三方を山に囲まれ、日本海に面した舞鶴湾は近畿百景に選ばれるなど豊かな自然に恵まれているのも特徴のひとつ。

自然があり都会にも近い「舞鶴」だからこそ暮らしの組み合わせは自由自在。近年、自分のやりたいことを見つたり、第2の人生を過ごすための移住先として舞鶴にやってくる人が増えてきています(左表参照)。

このまちに末永く住んでもらう

ために必要なものは、コミュニティ(居)、仕事(職)、住むところ(住)といわれています。この「居・職・住」3つ要素の中でも決めるまでに悩むものが「住む」ところです。

そこで、市は市内の空き家を活用し、舞鶴へ移住を希望している人に住居を提供する「お試し住宅」事業に取り組み、移住したい人の「住む」を応援しています。

昨年6月にはお試し住宅第1号が完成し、既に市外からの入居者が新たな生活を始めています。

そして、現在お試し住宅第2号の整備が行われており、3月には完成を予定しています。

第1号住宅と同じく、舞鶴高専の学生が設計を担当。また、住宅のある地区の住民と家主の皆さんに向けた説明会を実施し、改修のコンセプトや情報を共有。整備前の片付けには地域の皆さんも参加するなど、舞鶴に移住を希望している人が住みやすく、また、スムーズに入居できるように協力しながら受け入れ体制を整えています。

今回の特集では、お試し住宅第2号の整備に関わった舞鶴高専の学生や地域住民にスポットを当て、空き家再生に向けた取り組みと移住者の受け入れに向けた取り組みを紹介します。

《移住・定住促進課》